

# 報道関係者と民博との懇談会 話題一覧

2019年4月18日(木)15:30~17:00 懇談会

※懇談会終了後、お時間のある方は引き続きご懇談ください。

## 1. 挨拶

— 吉田 憲司 (館長)—

## 2. ニュースリリース

●みんなの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

— 園田 直子 (議長)—

## 3. 観覧料の改定について

— 吉田 憲司 (館長)—

## 4. 企画展「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年

— 『みられる私』より『みる私』

[詳しくはこちら](#)

1960年代末、急激な社会変化をむかえるサウジアラビア西部のオアシスで、文化人類学者の片倉もとは、当時ほとんど不可能と思われた長期調査をおこないました。そして「みられる私」ではなく「みる私」としてのサウジ女性の姿に気づきました。

本展示では、片倉が現地で撮影した貴重な写真を手がかりに、半世紀後に実施した最新の追跡調査の成果を交えながら、飾面や民族衣装など个性的で色鮮やかな物質文化をとおして、サウジ女性の生活世界の変遷をたどります。

期 間：6月6日(木)~9月10日(火)

会 場：国立民族学博物館 企画展示場

観覧料：一般 580円(490円) 大学生 250円(200円)

高校生以下 無料

※ ( ) は 20名以上の団体料金

リピーターは団体料金を適用

※本館展示もご覧いただけます。



— 西尾 哲夫 (グローバル現象研究部 教授)—

## 5. みんなく映画会「サーミの血」(第45回みんなくワールドシネマ)

[詳しくはこちら](#)

本館では2009年度から、研究者による解説付きの上映会「みんなくワールドシネマ」を実施しています。11年目となった今年でも、昨年に引き続き、〈人類の未来〉をキーワードに映画上映を展開していきます。

今回はスウェーデン・ノルウェー・デンマーク合作映画を上映いたします。独自の言語と文化を持つサーミ人の少女が、国の分離政策によって差別的な扱いを受け、自らのルーツと葛藤しながら成長し生きる姿を通して、民族のアイデンティティについて考えたいと思います。



日時：6月16日(日)13:30~16:30(開場 13:00)  
会場：特別展示館  
定員：350名(先着順/事前申込不要(整理券を11時から配布))  
参加費：要展示観覧券(一般:580円)

— 鈴木 紀 (人類文明誌研究部 教授)—

## 6. 最新の研究紹介

[詳しくはこちら](#)

### 「知のスイッチ」—「障害」からはじまるリベラルアーツ

(嶺重 慎、広瀬 浩二郎、村田 淳 編/岩波書店)

— 広瀬 浩二郎 (グローバル現象研究部 准教授)—

### 「子どもたちの文化史」—玩具にみる日本の近代

(是澤 博昭、日高 信吾 編/臨川書店)

— 日高 真吾 (人類基礎理論研究部 教授)—

### 「殴り合いの文化史」

(樫永 真佐夫 著/左右社)

— 樫永 真佐夫 (超域フィールド科学研究部 教授)—

## 国立民族学博物館・現代中東地域研究拠点のプロジェクト

昨年度末に二冊の資料集を出版しました。『ヤギのアーリーとイブラヒム』のセリフ集と『イラン博物館資料集』です。4月27日には『シャルギー（東洋人）』の上映会を企画しています。イラン人映画監督マスウード・ターヘリーによる、井筒俊彦（1993年没）についてのドキュメンタリーです。井筒の知人や同僚とのインタビューを通じて、彼の東洋思想の全容に迫ります。



— 相島 葉月 (グローバル現象研究部 准教授)—

## 8. 新任紹介

筑波大学大学院で博士号を取得後、日本学術振興会特別研究員 PD、ボルドー政治学院客員研究員として研究に従事。専門は文化人類学。北海道大学メディア・コミュニケーション研究院を経て現職。中国雲南省の回族を事例として、現代における宗教のあり方、マイノリティの自律性などについて研究。



— 奈良 雅史 (超域フィールド科学研究部 准教授)—

上智大学大学院で博士号を取得後、総合地球環境学研究所、オーストラリア国立大学で研究に従事。その後、東海大学海洋学部を経て現職。専門は、東南アジアやオセアニアの海域世界における人類の移住史や海洋・島嶼適応に関する研究。



— 小野 林太郎 (人類文明誌研究部 准教授)—

### お問い合わせ

国立民族学博物館 総務課 広報係



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

電話:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail:koho@minpaku.ac.jp